

編集後記

『名古屋アメリカ文学・文化』第4号をお届けします。本来、この第4号は昨年度に発行する計画でしたが、諸般の事情で発行が遅れ、1年の空白を経て、今年度の発行となりました。雑誌をコンスタントに発行することは何でもないことのように見えますが、実はそうではないことを思い知らされました。

さて、今号には、論文2点を掲載しました。ともに大学院生の執筆によるものです。以前の「編集後記」にも書いていますが、本誌は「名古屋アメリカ文学・文化研究会」の機関誌として位置づけられるものです。当研究会は、博士号取得を目指す大学院生や満期退学者に、また、すでに大学等で研究・教育に従事している研究者に、研究成果発表の場を提供し、論文の執筆や、研究内容のさらなる深化を促すことを目的として発足しました。大学院生の論文を掲載することはこの雑誌の目的に適うものです。掲載論文に対し、建設的な批評をいただければ幸甚に存じます。

研究会の活動としては、本誌の発行に加え、例会の開催、院生による読書会（「名古屋アメリカ文学読書会」）の開催、国際シンポジウムの開催などがあります。過去2年間に開催した国際シンポジウム・講演会をご紹介します。まず2015年3月23日～24日に、名古屋大学国際言語文化研究科の教育研究プロジェクト経費の助成により、“American Literature/Culture at the Crossroads of Race and Gender”と題した国際シンポジウムを開催しました。この催しは、アメリカ文学・文化を人種とジェンダー双方の視点から考察することにより、新たな研究の可能性を探ろうとしたものです。基調講演者として、Miami University の Yu-Fang Cho 氏をお招きし、17名が研究報告を行いました。報告者を含む参加者は、名古屋大学と近隣の大学、東京や岡山などで教鞭を執る研究者・大学院生などです。

2015年6月12日には、Minnesota University 教授の Paula Rabinowitz 氏をお招きして、講演会 “‘American Pulp’: How Paperbacks Brought Modernism to Main Street” を開催しました。この催しは、2014年にアメリカのペーパーバックについての研究書を出版されたラビノウィッツ教授に、同書の内容をもとに、講演していただき、アメリカ文化・社会についての理解を深めることを目的としたものです。聴衆には研究会のメンバーに加え、留学生を

含む学部生・大学院生、ペーパーバックについての研究を続けている研究者なども含まれ、講師とともに活発な議論が交わされました。

また、本稿執筆時より後のことですが、2016年3月20日～21日には、国際シンポジウム “‘Mobility’ and North American Literature/Culture” が開催されます。この催しは中京大学の「中京大学ポストコロニアル・ツーリズム研究会」との共同主催により行われるもので、基調講演者として、University of New Brunswick, Saint John 教授の Joseph Galbo 氏をお招きします。また18件の研究報告が行われます。

これまでの号同様、本誌掲載の論文をオンライン化する計画です。ファイルは「名古屋大学リポジトリ」に保存され、本研究会のウェブサイトからリンクがはられます (<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~nagahata/nu-alcs/>)。またご利用いただければ幸いです。

(長畑明利)